

2024年6月15日

第13巻への投稿について（お知らせ）

日本臨床教育学会
第7期機関誌編集委員会

学会機関誌『臨床教育学研究』第13巻(2025年3月刊行)への投稿原稿を以下の通り募集します。会員のみならずの貴重な研究成果をどうぞお寄せください。奮ってご投稿くださいますよう、お待ち申し上げます。

なお、前巻より、投稿方法や査読の方法が一部変更となっておりますので、とくに原稿の提出時にはご留意ください。下記にも示しますが詳しくは学会HPに掲載の「投稿規程(2023年11月)」「査読規程(2023年11月)」をご一読ください。

記

1. 今巻で募集する原稿は、「編集規程(2011年9月)」の「3」にある論文、実践・事例研究論文、研究ノート、実践・事例・調査報告です。
またこれらに加え、書評、文献紹介の投稿も歓迎します。執筆を希望する会員は編集委員長に照会ください。
2. 本学会の「投稿規程(2023年11月)」「執筆要領(2020年6月)」「倫理規定(2011年10月)」に定める内容を遵守し、ご投稿ください。とくに投稿に際し、「投稿規程」の8.の③に示すように、原稿の執筆者・投稿者の匿名性に特別の配慮が求められます。
3. 投稿原稿は、印刷した現物をクリップ留めにして4部(原本1部、コピー3部)を郵送等で提出するとともに、原稿のデジタルデータ(word等ファイル・pdfファイルの2種)をメールにて送信ください。提出・送信先については下の8.に示しています。
4. また、所定の「投稿申込書」(学会HPに掲載)に必要事項を記入し、そのデジタルデータを原稿の提出〆切日までに、下の8.に示す編集委員長宛にメールにて提出ください。投稿原稿の送信と同時の提出でも、別での提出でもかまいません。
投稿申込書・投稿原稿の両者の到着を確認した後に、受領のお知らせをメールにて返信いたします。
5. 投稿資格があるのは、共著者も含めすべて日本臨床教育学会の会員に限ります。投稿時に会費納入を完了していることにもご留意ください。
6. 投稿の〆切は 2024年9月15日(当日消印等有効) です。
7. 第13巻では別添の通り、「人間の生存・成長において集うこと、遊ぶこと、学ぶこと、暮らすこと、の意味を考える」という特集を行います。今巻では特集テーマの原稿もみなさまから募集します。特集への投稿を希望する場合はその旨を投稿時にお知らせください。査読の結果、特集での採用とされない場合にも、一般投稿として受け付けます。
8. 提出先・送信先および問合せ先(第7期機関誌編集委員会 委員長)

〒501-6194 岐阜県岐阜市柳津町高桑西1-1

岐阜聖徳学園大学 教育学部

龍崎 忠

TEL/FAX 058-279-6758

E-mail tryu@gifu.shotoku.ac.jp

以上

(別添)

第13巻特集テーマ

人間の生存・成長において

集うこと、遊ぶこと、学ぶこと、暮らすこと、の意味を考える

コロナ禍を経た今、学校行事が中止・縮小の傾向にあるという。

命と健康を守るため何も行えないときを過ごしたのち、教育の可能性として新たな景色が見えてきたということだろうか。そもそも学校行事が果たしてきた意味というものが問い返された結果なのだろうか。教員の負担軽減というコストパフォーマンスの問題なのだろうか。学校現場の中では、多忙化・長時間労働の改善を求める声と同時に、授業以外の教育活動の果たす役割を軽視はできないという声が多い。

保育において子どもが集い、遊び、学ぶことは、日常そのものでもある。行事はとりわけ子どもたちの生活を豊かにし、仲間や先生、家族とともに心動かす経験である。しかし、コロナで命を守るために徹底された「安全」「衛生」管理からなかなか抜け出すことはできずにいる園、保育者、保護者、子どもたちもいる。また、コロナをきっかけに急速に進んだデジタル化は、欠席連絡や配布物を楽にしてくれた一方で失ったものも少なくないだろう。

人が集い暮らすことへ想いを馳せたときには、過疎地にみる学校の果たす役割を見逃すことはできない。過疎地の「不便さ」をデジタル技術のみで解消することはできないであろうし、過疎地の少人数での豊かな関わり・体験は、都市部においても実現するようにすることこそが必要なのではないだろうか。

コロナ禍中の臨床教育の場に目を転じたとき、臨地実習の機会が奪われ、創意工夫のなか代替となる教育実践を行うことで、新たな気づきを得て、今後の教育を展開している場合もあるだろう。もちろん、集わずとも学ぶことの可能性へと安直につなぐことには慎重でありたい。だが他方で、デジタル技術に馴染み育ってこなかった教育・ケアの担い手は、デジタルツールに塗れて育った者の生存・成長の姿を掴み損ねていやしないだろうか。

集うことには「一斉」という集団同調圧力という暴力すら伴う。されど、誰かがそっと傍に居ることの意味を噛み締めることもあるに違いない。

ここまで、両極に大きく振れながら大風呂敷を広げてみた。

今一度、ニューノーマルと言われているその実態を見据えつつ、現在とこれからにおける、人間の生存・成長において集うこと、遊ぶこと、学ぶこと、暮らすことの意味を、会員の皆さまと共に熟考する機会として、第13巻の特集論文を組むこととしたい。